

無料WEBセミナー

# PMBOK7

を正しく理解して  
活用しよう！

～PMBOK6 と何が変わり、  
どのように活用すべきか～

2021/11/24 (WED)

16:00～16:40

講師：

株式会社システムインテグレータ  
代表取締役社長 梅田 弘之



# 時間を奪うのではなく、時間を与えるソフトウェアを創り続ける

社名	株式会社システムインテグレータ
設立/代表	1995年3月14日 代表取締役社長：梅田弘之
所在地	本社：埼玉県さいたま市中央区新都心11-2 東京営業所：東京都渋谷区恵比寿南2-1-10 大阪支社：大阪府大阪市中央区平野町3-6-1 名古屋営業所：名古屋市中村区名駅二丁目41-10 福岡支社準備室：福岡市博多区博多駅前3-4-25
資本金	3億6,771万円
取引所	東京証券取引所第一部（3826）
社員数	231名（役員9名含む）2021年11月1日 現在



せっかくなので、  
オンライン名刺交換  
しましょう。



## SI Object Browser

【データベース開発支援ツール】

- ・GUI操作でオブジェクトを簡単作成
- ・国内主要データベースに対応



【完全統合型Web-ERP】

- ・日本の企業文化に適合した完全Web-ERP
- ・多彩なアドオン・テンプレートを提供



【AIを使った異常検知】

- ・AI画像認識による製造業向け異常検知
- ・エッジコンピュータ、AIクラウドを活用



【統合型プロジェクト管理ツール】

- ・プロジェクト管理の標準「PMBOK」に準拠
- ・工数・原価、進捗、要員、品質管理を統合



【ECサイト構築パッケージ】

- ・日本発のECサイト構築パッケージ
- ・大規模EC/ソース公開/グローバル対応



【カスタマーサクセス支援】

- ・利用者の声(VoC)を直接聴いてチケット管理
- ・利用者と双方向コミュニケーション

## SI Object Browser Designer

【ソフト開発のCAD】

- ・設計データをデータベース化
- ・豊富な設計書アウトプット



【プログラミングスキル判定サービス】

- ・エンジニア採用や社員プログラミング教育
- ・プログラミングスキルをリアルタイム判定



【アイデア創出サービス】

- ・社員発想のアイデアが湧き出す、育てられる
- ・発想会(Gardenning)で利用できるツール

# PMBOKとは

## PMBOK(Project Management Body of Knowledge)

- ・プロジェクトマネジメントに関するノウハウや手法を体系立ててまとめたもの
- ・1987年非営利団体PMIがガイドブック「A Guide to the Project Management Body of Knowledge」発表



## PMBOKの意義



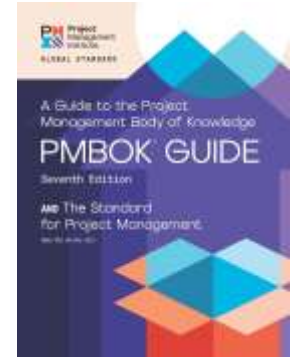
# PMBOKとPMP試験の状況

- リリース状況

- ✓ 2021年7月2日リリース、8月1日英語版書籍発売
- ✓ 2021年10月4日リリース、10月26日日本語版書籍発売
- ✓ PMI本部会員であれば、PDF形式のダウンロードが可能

- PMP試験への影響

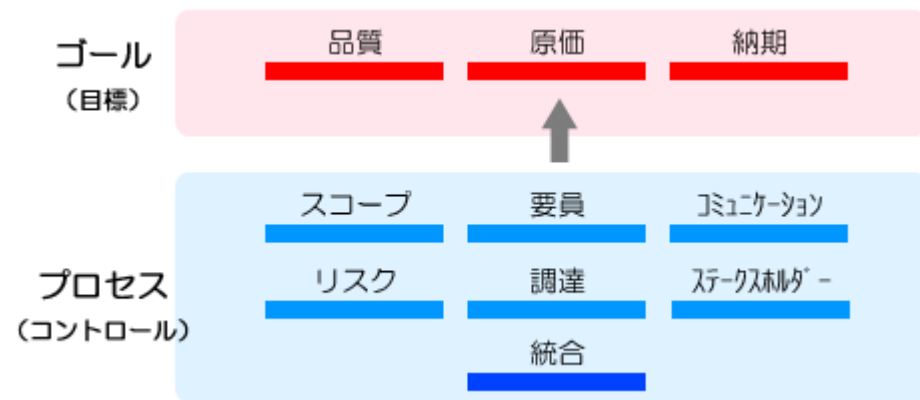
- ✓ 21年11月時点で試験内容の変更はアナウンスされていない
- ✓ 直近は21年1月に試験内容が変更されている（PMBOK 6 の内容）





# PMBOK 6 までの構成

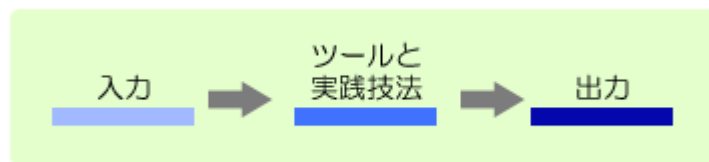
## ◆10の知識エリア



## ◆5つのプロセス



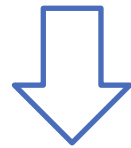
## ◆3つのパート (ITTO)



知識エリア	出力	プロセス				
	ツールと実践技法					
	入力	Initiating (立ち上げ)	Planning (計画)	Executing (実行)	Controlling (監視・管理)	Closing (終結)
Integration Management (総合管理)		・プロジェクトスコープ 記述書暫定版 作成	・プロジェクト 管理計画書作成	・プロジェクト実行 の指揮・管理	・プロジェクト 作業の監視・管理 ・統合的な 変更管理	・プロジェクト 終結
Scope Management (スコープ管理)			・スコープ計画 ・スコープ定義 ・WBSの作成		・スコープ管理 ・スコープ変更 管理	
Time Management (スケジュール管理)			・作業の定義 ・作業順序の設定 ・必要リソース見積もり ・所要時間の見積もり ・スケジュール作成		・スケジュール 管理	
Cost Management (コスト管理)			・コスト見積もり ・予算設定		・コスト管理	
Quality Management (品質管理)			・品質計画	・品質保証	・品質管理	
Human Resource Management (組織管理)			・要員計画	・チーム結成/ 育成	・プロジェクト チームの管理	
Communication Management (コミュニケーション管理)			・コミュニケーション計画	・情報の配付	・実績報告 ・ステークホルダー 管理	
Risk Management (リスク管理)			・リスク管理計画 ・リスクの定義 ・リスクの定性化 ・リスクの定量化 ・リスク対策の計画		・リスクの 監視/管理	
Procurement Management (調達管理)			・引合計画 ・契約の計画	・提案依頼 ・発注先選定	・契約管理	・契約の完了
Stakeholders Management (ステークホルダー管理)	ステーク ホルダー特定	ステークホルダー 管理計画	ステーク ホルダー・ エンゲージド 管理	ステーク ホルダー・ エンゲージド ・コントロール		

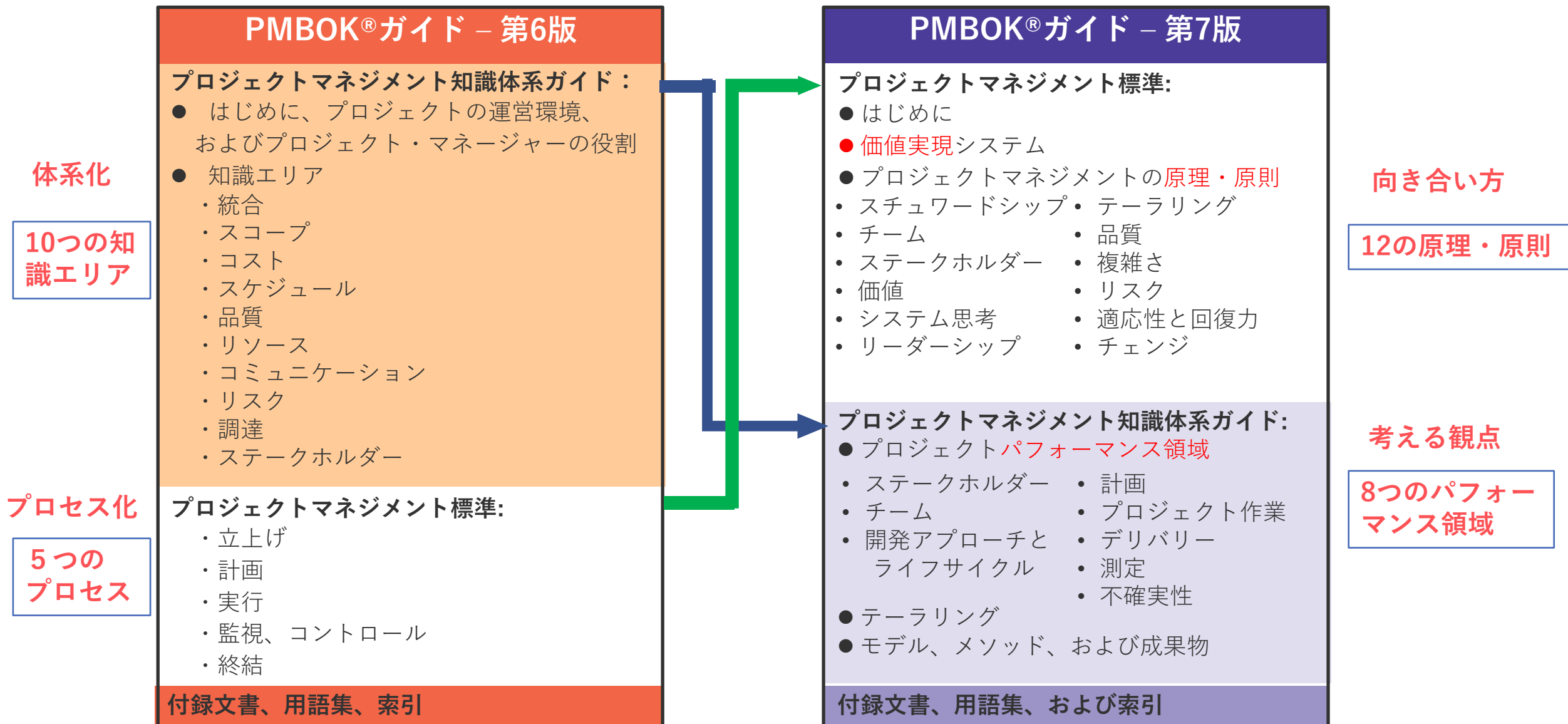
# PMBOK7でよく言われている説明

- ✓ 「ウォーターフォールモデル中心」から「アジャイルのプリンシプルベース」に変化
- ✓ 「プロセス重視」から「原理・原則重視」に変化
- ✓ 「成果物提供」より「価値提供」を重視
  
- ✓ 「10の知識エリア」から「8のパフォーマンスドメイン」に変更
- ✓ 「5のプロセス」から「12の原理・原則」に変更
- ✓ ITTO（入力/ツールと実践技法/出力）は廃止
- ✓ PMBOK6までの資産はPMBOK7には含まれない



表面的には間違っていない（間違っているものもある）が、もっと本質を理解しよう

# PMBOK 6 と PMBOK 7 のコンテンツ



出典：PMI日本支部「PMBOKガイド第7版」をもとに編集

# 1. 視点を広げる

- ・（成果物の定義はbookでは限界）代わりに、大きな観点で価値を考えよう
- ・（プロジェクトだけでなく）価値を実現する仕組みを全体で考えよう

## 【価値】

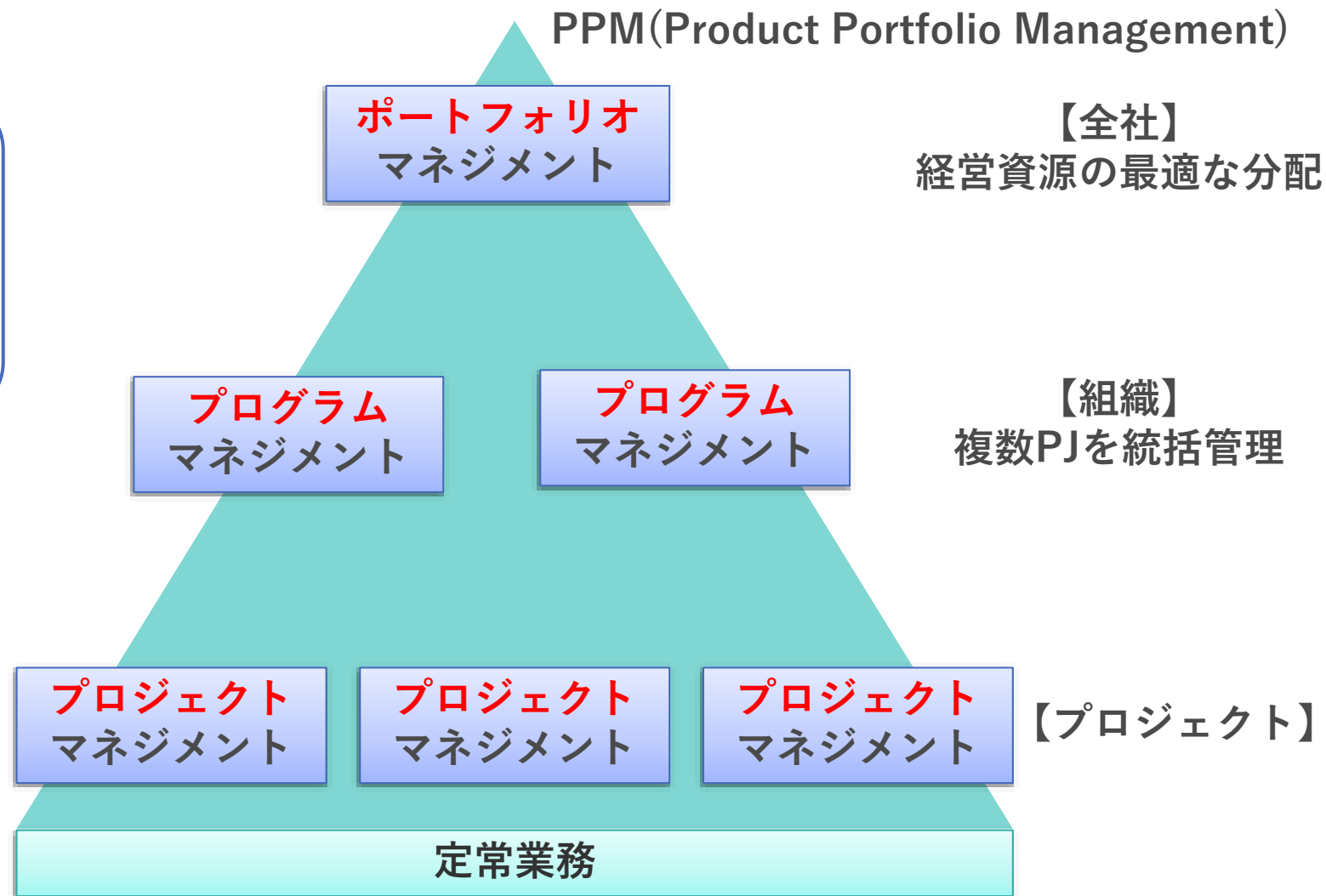
- ・ 新規プロダクトやサービスを創出
- ・ 社会や環境への貢献
- ・ 効率性、生産性などの向上
- ・ 変革の実現
- ・ 既存価値の維持
- ・ . . .



価値を創出

## 【価値実現システム】

- ・ ポートフォリオ
- ・ プログラム
- ・ プロジェクト
- ・ 定常業務





# (参考) インセプションデッキ(the-agile-inception-deck)

## ◆プロジェクトを開始する際の10の質問 (アジャイルのプロジェクト憲章)

### 1. 我々はなぜここにいるのか

2. エレベータピッチ
3. パッケージデザイン
4. やらないことリスト
5. 「ご近所さん」を探せ
6. 技術的な解決案を描く
7. 夜も眠れなくなるような問題
8. 期間を見極める
9. トレードオフライダー
10. 何がどれだけ必要なのか

## ◆PMBOK7



価値を考える

出典：<https://agilewarrior.wordpress.com/2010/11/06/the-agile-inception-deck/>

## 2. さまざまな要素を対象に含める

- ・（プロジェクトだけでなく）組織や職務などについても考えよう  
※コンピテンシー…職務や役割において優秀な成果を発揮する行動特性
- ・（プロジェクト内部だけでなく）プロジェクトを取り巻く環境（内部環境と外部環境）にも目を向けよう

（例）

### 【内部環境】

- ・ プロセス資産（ツール、方法論、アプローチ…）
- ・ ガバナンス文書
- ・ データ資産（データベース、ライブラリ、データ…）
- ・ 知識資産
- ・ セキュリティと安全（アクセス、データ保護…）
- ・ 組織の分化、構造、ガバナンス
- ・ 施設や資源の地理的分布（職場、バーチャル…）
- ・ インフラストラクチャー（施設、機器、チャネル…）
- ・ 情報技術ソフトウェア（スケジューラ、ツール…）
- ・ リソースの可用性（契約の成約条件、提携合意…）
- ・ 社員の能力（一般知識、専門知識、スキル…）

### 【外部環境】

- ・ 市場の状況（競合他社、市場シェア、技術動向…）
- ・ 社会的、文化的な影響と事柄（政治、習慣…）
- ・ 規制環境（セキュリティ、業務遂行、雇用…）
- ・ 商用データベース
- ・ 学術調査
- ・ 業界標準（プロダクト、製造、環境、品質、機能…）
- ・ 財務上の考慮事項
- ・ 物理的環境（作業条件、気候…）

### 3. 「原理・原則」を持つ

- ・プロジェクト管理を行うための基本スタンス（行動指針）を定義

	12の原理・原則	概要
1	スチュワードシップ	勤勉で、敬意を払い、面倒見の良いスチュワードであること
2	チーム	協働的なプロジェクト・チーム環境を構築すること
3	ステークホルダー	ステークホルダーと効果的に関わること
4	価値	価値に焦点を当てること
5	システム思考	システムの相互作用を認識し、評価し、対応すること
6	リーダーシップ	リーダーシップを発揮すること
7	テーラリング（対応）	状況に応じてテーラリング（対応）すること
8	品質	プロセスと成果物に品質を組み込むこと
9	複雑さ	複雑さに対処すること
10	リスク	リスク対応を最適化すること
11	適応性と回復力	適応力と回復力を持つこと
12	チェンジ（変革）	想定される未来の状態を達成するために変革できるようにすること

# (参考) アジャイルソフトウェア開発宣言(Manifesto)

プロセスやツールよりも**個人と対話**を、  
包括的なドキュメントよりも**動くソフトウェア**を、  
契約交渉よりも**顧客との協調**を、  
計画に従うことよりも**変化への対応**を、

価値とする。

出典：<https://agilemanifesto.org/>

アジャイル宣言の12の原則	
1	顧客満足を最優先し、価値のあるソフトウェアを早く継続的に提供します。
2	要求の変更はたとえ開発の後期であっても歓迎します。変化を味方につけることによって、お客様の競争力を引き上げます。
3	動くソフトウェアを、2-3週間から2-3ヶ月というできるだけ短い時間間隔でリリースします
4	ビジネス側の人と開発者は、プロジェクトを通して日々一緒に働かなければなりません
5	意欲に満ちた人々を集めてプロジェクトを構成します。環境と支援を与え仕事が無事終わるまで彼らを信頼します。
6	情報を伝えるもっとも効率的で効果的な方法はフェイス・トゥ・フェイスで話をすることです。
7	動くソフトウェアこそが進捗の最も重要な尺度です。
8	アジャイル・プロセスは持続可能な開発を促進します。一定のペースを継続的に維持できるようにしなければなりません。
9	技術的卓越性と優れた設計に対する不断の注意が機敏さを高めます。
10	シンプルさ（ムダなく作れる量を最大限にすること）が本質です。
11	最良のアーキテクチャ・要求・設計は、自己組織的なチームから生み出されます。
12	チームがもっと効率を高めることができるかを定期的に振り返り、それに基づいて自分たちのやり方を最適に調整します。

## 例) 原理・原則「チーム」

～協働的なプロジェクトチーム環境を構築すること～

(どんな内容が書かれているか)

- ①プロジェクトチームは組織および専門職の分化とガイドラインに従って作業し、しばしば固有の「ローカル」な文化を確立することがある。
- ②協働的なプロジェクトチーム環境は、「他の組織の文化やガイドラインとの整合」「個人とチームの学習および育成」「望ましい成果を提供するための最適な貢献」を促進する。
- ③チームの合意は重要。プロジェクト開始時に形成し、協働しながら発展させてゆく
- ④組織構造はプロジェクトの外側にあり、プロジェクト状況に合わせてテーラリングしたりする
- ⑤チームは、タスクを割り振るプロセスを決める (WBSやバックログ、タスクボードなどを使うなど)
- ⑥チームは、タスクに関連した権限や説明責任、実行責任を明確にする。

(結局、どう役立てるか)



チームビルディングやチームでのプロジェクト遂行の際に、気を付けるべきスタンス、心構えのヒントを読み取る。

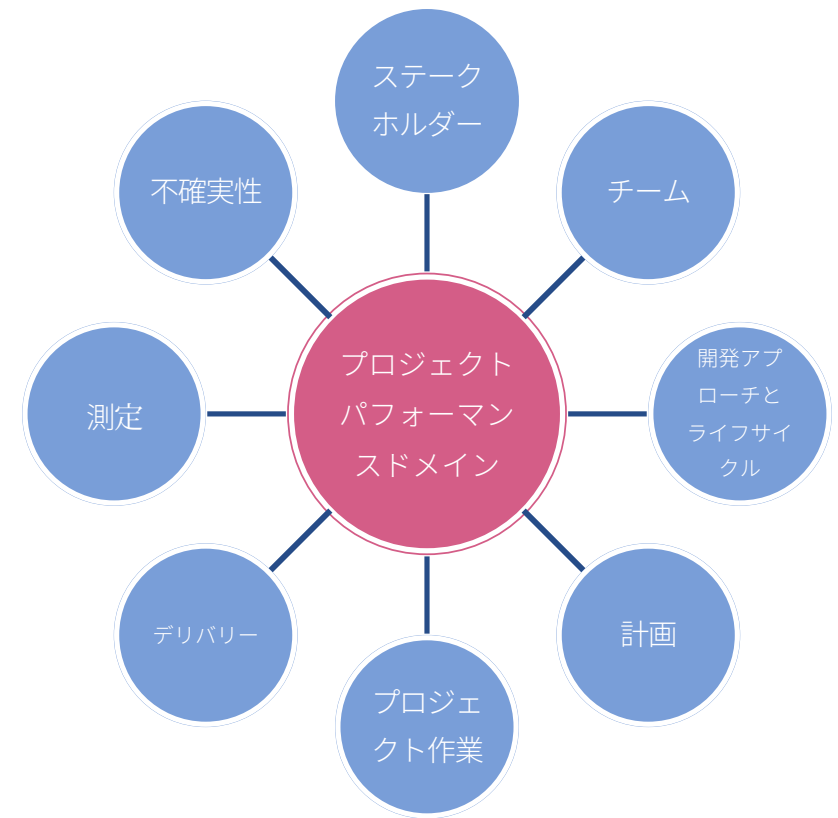


# 「12の原理・原則」と「8つのパフォーマンス領域」の関係

- 「12の行動指針を意識しながら、8つの活動領域(ドメイン)それぞれで考える」

12の原理・原則（行動指針）	
スチュワードシップ	テーラリング（対応）
チーム	品質
ステークホルダー	複雑さ
価値	リスク
システム思考	適応性と回復力
リーダーシップ	チェンジ（変革）

行動指針として  
各領域で活動



## 例) パフォーマンス領域「開発アプローチとライフサイクル」

(どんな内容が書かれているか)

- ①この領域は、プロジェクトの開発アプローチ、ケイデンス（リズム）、ライフサイクル・フェーズに関連する活動である
- ②成果物、開発アプローチ、ケイデンス、プロジェクトフェーズ、プロジェクトライフサイクルを定義  
(例) プロジェクト・ライフサイクル：プロジェクトがたどる開始から終了に至る一連のフェーズ
- ③開発アプローチには、「予測型(WF手法)」「ハイブリッド」「適応型（アジャイル）」がある  
※それぞれのアプローチの特性や向き不向き、組織、考慮事項などを解説
- ④デリバリーケイデンスと開発アプローチによりプロジェクトライフサイクルが異なることを例示  
...

(結局、どう役立てるか)



現代のプロジェクトは、開発アプローチ、反復型開発やデリバリーの方法も非常に多様化している。それを体系的に整理して解説しているので、適切なアプローチや手法を選択するための指針を持てる。

# デジタルコンテンツプラットフォーム

**PMBOK®ガイド – 第6版**

**プロジェクトマネジメント知識体系ガイド：**

- はじめに、プロジェクトの運営環境、およびプロジェクト・マネージャーの役割
- 知識エリア
  - ・統合
  - ・スコープ
  - ・コスト
  - ・スケジュール
  - ・品質
  - ・リソース
  - ・コミュニケーション
  - ・リスク
  - ・調達
  - ・ステークホルダー

**プロジェクトマネジメント標準：**

- ・立上げ
- ・計画
- ・実行
- ・監視、コントロール
- ・終結

付録文書、用語集、索引



**PMBOK®ガイド – 第7版**

**プロジェクトマネジメント標準：**

- はじめに
- 価値実現システム
- プロジェクトマネジメントの原理・原則
- ・ スチュワードシップ・ テーラリング
- ・ チーム                      品質
- ・ ステークホルダー      複雑さ
- ・ 価値                        リスク
- ・ システム思考            適応性と回復力
- ・ リーダーシップ          チェンジ

**プロジェクトマネジメント知識体系ガイド：**

- **プロジェクトパフォーマンス領域**
  - ・ ステークホルダー      計画
  - ・ チーム                    プロジェクト作業
  - ・ 開発アプローチと      デリバリー
  - ライフサイクル          測定
  - 不確実性
- テーラリング
- モデル、メソッド、および成果物

付録文書、用語集、および索引



**(参照) アジャイルのプラクティス**  
アジャイルを実現するための取り組み、実務慣行

(例)

- ・ テスト駆動開発
- ・ ペアプロ
- ・ 継続的インテグレーション
- ・ 継続的デリバリー
- ・ インセプションデッキ
- ・ . . .

**PMBOKのプラクティス（実務慣行）は、  
デジタルコンテンツへ**

## PMI standards + デジタルコンテンツプラットフォーム

- ・ このプラットフォームは、「モデル、メソッド、成果物」の項を介してPMBOK®ガイドにリンクされており、そのコンテンツをさらに拡張している。
- ・ プラットフォームには、すべてのPMI標準コンテンツと、プラットフォーム専用開発されたコンテンツが組み込まれている。
- ・ コンテンツには、新たなプラクティスを含め、実際のプラクティスの「ハウツー」を反映している。

**ベストプラクティス集**

出典：PMI日本支部「PMBOKガイド第7版」をもとに編集

アプローチや業界、資料形式などからコンテンツを検索できる（英語）




Standards

[View Source >](#)

## Project Closeout Template

Project Information	
Project Name	OSHA 1910.1060 System
OSHA Chapter	1910.1060
Project Manager	1910

Project Description

This training program is designed to provide a comprehensive overview of the OSHA 1910.1060 system. It is designed to be used by all employees who are involved in the implementation of the system. It is also intended to provide a comprehensive overview of the system. It is also intended to provide a comprehensive overview of the system. It is also intended to provide a comprehensive overview of the system.

Performance Summary		
Objectives	Completion Criteria	Assessment
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. Develop a 1910.1060 system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>2. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>3. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>4. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>5. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>6. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>7. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>8. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>9. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>10. Implement the system which meets the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>2. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>3. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>4. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>5. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>6. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>7. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>8. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>9. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>10. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>2. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>3. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>4. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>5. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>6. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>7. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>8. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>9. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> <li>10. The system is implemented in accordance with the requirements of the OSHA 1910.1060 system.</li> </ul>

[Download](#)
[Print/Save](#)
[Refresh](#)
[Add to Favorites](#)

 Like

 Save

 Share

 Download

 Feedback

# まとめ

## • これまでのPMBOK

- ✓ プロジェクト管理からスタート→プログラムやポートフォリオなど、**観点が多様化**
- ✓ ウォーターフォールからスタート →アジャイルやハイブリッドなど、**開発アプローチが多様化**
- ✓ 10知識エリア×5プロセスに体系化→開発手法や管理単位により、**体系が多様化**
- ✓ ITTOを定義 →開発手法や管理単位により、**入出力が多様化**

## • PMBOK7

- ✓ プロジェクトだけでなく、プロジェクトを取り巻くあらゆる要素（組織、職務、内外環境…）を対象に拡大
- ✓ 体系や入出力を（書物では限界なので）デジタルコンテンツとして提供…合ったものを抽出して利用
- ✓ 代わりに（アジャイル憲章と同じように）原理・原則を含めた
- ✓ 知識エリアで考える代わりに、パフォーマンスドメイン（活動領域）ベースでプロジェクトを考える

第6版
プロセスを定義 (5つのプロセス)
管理領域を定義 (10の知識エリア)
ウォーターフォール主体
成果物を定義
ベストプラクティス (How to)



第7版
原則ベース (12の原則)
活動領域を定義 (8のパフォーマンスドメイン)
様々な開発アプローチ
価値を重視
デジタルコンテンツへ



# PMBOKに対応した統合型プロジェクト管理ツール



- ✓ プロジェクトマネジメント、プログラママネジメントなどの観点
- ✓ ウォーターフォール、ハイブリッド、アジャイル開発などの開発アプローチ
- ✓ プラクティスをドメインにより標準化

PMBOK準拠

統合型プロジェクト管理

プロジェクトの見える化

タスク・見積の標準化

状況把握・予測

進行基準対応



Webクラウドサービス

Google Chrome (Windows版/Mac版 最新ver)  
Microsoft Edge (Windows版 最新ver) 対応

工数・採算管理・見積

進捗・ガントチャート・EVM

要員管理・メンバースキル

品質管理 (テスト予実、障害)

課題管理・QA・リスク管理

レビュー管理



ありがとうございました



時間を奪うのではなく、時間を与えるソフトウェアを創り続ける

# System Integrator

※本資料掲載の情報・画像など、すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

